

平成 27 年 7 月 13 日

小野市議会議長 前田光教 様

総務文教常任委員長
竹内 修

行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成 27 年 7 月 1 日 (水) ～平成 27 年 7 月 3 日 (金)

2 視察メンバー

総務文教常任委員会視察

河島 三奈・平田 真実・椎屋 邦隆・河島 信行・前田 光教・岡嶋 正昭・加島 淳
竹内 修

3 視察先及び調査内容

(1) 岩手県二戸市 (人口：約 2 万 9 千人、面積：420.31K m²)
にのへブランド海外発信事業について

(2) 岩手県盛岡市 (人口：約 29 万 5 千人、面積：886.47K m²)
もりおか復興推進しえあハート村について

(3) 秋田県鹿角市 (人口：約 3 万 3 千人、面積：707.34K m²)
子どもが輝く学校教育の推進について

4 調査結果

【第 1 日】

岩手県二戸市

人口約 2 万 9000 人 面積：420.31K m²

≪視察項目≫

このへブランド海外発信事業について

≪視察内容≫

{1}事業の目的

二戸市が誇る浄法寺漆や南部美人（日本酒）等地域特産品を海外（ニューヨーク）でPRすることにより、他の地域・自治体との差別化を図り、二戸のブランドイメージの向上を図る。

また、海外での情報発信と販路開拓を展開し、海外での評価・実績を日本国内にフィードバックして国内での市場開拓・販路拡大につなげることで、地場産業の振興を図る。

≪事業概要≫

(1)平成25年度実施事業

① 在ニューヨーク総領事・大使公邸における二戸市レセプション。

日時：平成25年8月27日(火)18：30～20：30(受付18：00)

内容：浄法寺漆と南部美人についてのセミナー開催。

「浄法寺漆器」に触れ「南部美人」（日本酒）を味わうレセプションの開催及び会場での「いわて短角和牛」、特別栽培米「いわてっこ」、「南部せんべい」の提供。

会場：在ニューヨーク総領事館・大使公邸。

実施状況：本紙の特産品として、今回の事業の中心となる日本酒と漆器のセミナーを、大使公邸の一階を会場として開催した。

市を紹介する映像に引き続き、日本酒については「南部美人と東北の復興」と題して南部美人の久慈浩介専務（当時）が、漆器については「浄法寺漆の魅力」という題目で滴生舎非常勤職員の鈴木真樹子が、パワーポイント等により説明を行った。

セミナー終了後、大使公邸の2階を会場にレセプションを開催し、草賀大使のあいさつに続き、市長あいさつ、鏡開き、久慈商工会長の音頭で乾杯を行った。日本酒と漆器のほか、いわて短角和牛、特別栽培米いわてっこ、南部せんべいを本市から提供し、現地レストラン sakamai の秋山シェフにより調理し、参加者に味わっていただきながら交流を深めた。協力機関・団体、岩手県人会等を通じて様々な分野から約200名の参加をいただき、セミナー会場では立ち見も出るほどの大盛況で、レセプションで提供した、いわてっこ、短角和牛、南部せんべいはいずれも大好評であった。また漆についても文化的な価値と合わせて高い評価をいただいた。

② このヘシティフェア IN ニューヨーク。

日時：平成25年8月28日(水)～9月6日(金)10：00～19：00

内容：二戸市が誇る「浄法寺」と「南部美人」（日本酒）の展示販売。

漆と南部美人を知ってもらおうイベントおよび漆と萩グラスを組み合わせた商品、南部美人の新商品等のプロモーションの開催。

会場:ニューヨーク共同貿易「MTC キッチン」

実施状況：レセプションの翌日（8月28日）からは、マンハッタンにある共同貿易ショールーム MTC キッチンにおいて、漆器を使った日本酒の試飲、日本酒、浄法寺漆に関するセミナーなど、来場者に背景や理解を深めてもらいながら PR を展開した。

{2} 平成26年度実施事業

① オープニングレセプション

日時：平成26年10月3日(金)18:00～20:00(受付17:00)

内容：このヘシティフェア IN ニューヨーク2014のオープニングに際し、政府・自治体関係者、プレスメディア、漆・美術関係者を招待したパーティーを開催。

会場：EN JapaneseBrasserie

実施状況：このヘシティフェア IN ニューヨーク2014のオープニングに際し、市の魅力を発信するためニューヨークの発信力の高い方々を招待し開催。市長、草賀ニューヨーク大使のあいさつの後、在ニューヨーク日本国総領事館へ漆器の贈呈を行った。

日本酒の試飲のほか EN の阿部シェフによるスペシャルメニューを提供した。市から提供した、漆原畜産牧場産のいわて短角牛は金田一営農組合の特別栽培米いわてっこ、小松製菓の南部せんべい、大西ファームのドライトマト、黒ニンニクなどがメニューに使用された。

招待者には、南部せんべいと浄法寺塗りの箸とパンフレットをお土産にし、大好評であった。

② 二戸市レストランフェア

期日：平成26年10月2日(木)～10月5日(日)

内容：ニューヨーク市内3ヶ所のレストランにおいて、期間限定で各レストランのシェフが考案した二戸市の食材を使ったメニューを浄法寺塗りと共に提供。

会場：EN JapaneseBrasserie,,Kyo Ya, Sakamai

実施状況：二戸産食材をニューヨークの日本食トップシェフが調理したメニューは大好評で、参加者からも満足の声が上がった。

シェフの盛りつけの美しさが漆器の美しさと相乗効果でさらにすばらしかった、手触り、口触りの滑らかさに驚いたという意見があった。シェフからも、本当にいい漆器は違いと大変感動した。これからも出来るだけ実際にお客様に体験してもらっていければというコメントをいただいた。

③ 第21回ニューヨーク共同貿易日本食レストランエキスポ

期日：平成26年10月4日(土)10:00～17:00

内容：米国北東部の多くの飲食店関係者が集うレストランエキスポに二戸市特産品を出展し、販路拡大につながる取り組みを実施。

会場：Metropolitan Pavilion

実施状況：ニューヨーク共同貿易と取引のない商品についてはサンプルという形での出店となったが、試食等では関心を示していただけたものの会場で取引が成立す

るところまでには至らなかった。漆器、テーブルウェアに関しても、委託販売という形であれば取り扱うことは可能であるとのことであったが、取り扱いには至らなかった。

④ 漆セミナー／ワークショップ

期日：平成26年10月6日(月)18：00～(受付17：30)

内容：漆に関する講演や漆塗り等の実演を行うワークショップを開催。

会場：Japan Society

実施状況：事前予約制であったが無料イベントということもあり、88名の来場者であった。講演は松沢会長と漆芸家のスザンロスの2人が行い、講演後の質疑応答は日本の漆文化への高い関心が示されたり、実演でも塗り、金継ぎ、蒔絵それぞれに技術に関する質問がされる等、高い関心が示された。

《所 感》

この事業の経過を見ていると、大いなる挑戦の意識が感じられます。元々は地域振興として出発したのだらうと思います。地域を見てみれば、働く場所が少なく人口減少に悩まされながら何とか地元を盛り上げたいという思いから来たものと思う。地元深く根差す文化、地域生活に密着した風土に残され、伝統的に伝わった漆や地元の酒を突破口にして、地域振興の目的を果たそうとしています。そうはいってもなかなか難しい選択ではないかと思う。もともと盛んであれば取り組む必要もいらないし、広げる必要もない。特に、漆を、木の栽培、樹液の採取、漆器にする木地の製作、漆の塗り師と、かなりの広範囲にわたる分業制そのものの構造をもう一度立ち上げなければならないことは、新しいものを生み出すのと同じくらい大変なのは想像できる。漆の木を樹液が採取できるまで育てるのはかなりの時間がかかる。それを乗り越えての事業なので一朝一夕には、解決できないであろう。地元はその木があるのは文化的に恵まれていると思うが、かなりの労力、かなりの本数になると思う。そしてさらに塗り師、職人を育てるなんていうことは不可能に近い取り組みである。伝統産業を守り、継承することは地域の課題ではあるものの、市の非常勤職員採用で、一人立ちまでサポートされていることに、なみなみならぬ思いを感じています。

背景はこういうことだと説明があったのですが、それを、ニューヨークまで行ったのは、民間の活力に同調した市の思い、勢いを感じます。民間は民間で販路拡大、市場拡大は至上命題なので普通の話ではあるものの、目的意識の共有が無ければ、成功しない。お金儲けと、文化の継承。とても無理そうな話に感じる。本来こういうことは国が前に出てこそそのものと思う。それに挑戦である。応援したい。

【第2日】

岩手県盛岡市

人口約 29 万 5000 人 面積：886.47K m²

≪視察項目≫

もりおか復興推進しえあハート村について

≪視察内容≫

1. 事業の目的

盛岡市、総務部危機管理防災課

{東北地方太平洋沖地震}

平成23年3月11日(金)14時46分頃

震度6弱。

盛岡では震度5強であった。

平成23年3月

災害対策本部の設置。

平成23年4月

復興推進部の設置（沿岸部の被害を知ってのこと）

平成23年6月

復興推進の取り組み方針の策定

平成23年11月

アドバイザーボードの設置（有識者会議）

平成24年3月

東日本大震災復興推進・放射能対策本部の設置

平成24年4月

危機管理課の新設

平成26年4月

危機管理防災課に再編

復興推進の取り組み方針(再生期編)

◎ 盛岡市は岩手県の内陸部にあり、東日本大震災に際しても被害は少なかった。

しかし、県都である盛岡は震災復興に対して重要な責任がある。

～私たちの未来は被災地と共に～

○基本的な方向

① 被災者・被災地自立を支援

② ハブ（結節点）・コーディネーター

としての役割・機能の発揮

③ 「つながり」と「連携」により

復興を加速

○取り組みの4つの柱

① 内陸被災者支援

② 沿岸被災地支援

③ 経済の牽引

④ 情報・元気の発信

▲ 盛岡市の復興推進事業

- ① もりおか復興支援センターの運営
- ② もりおか復興推進しえあハート村の運営
- ③ 復興推進情報の発信
- ④ その他の事業

▲ もりおか復興推進センターの運営

◆ 避難所運営の経験から

- ・「沿岸の情報がわからない」という声
- ・個別相談の履歴が蓄積されない

↓ ↓

◆ 市内で避難生活を送っている被災者を支援するための拠点施設として、市役所のすぐそばに平成23年7月11日開設

○ 沿岸被災地から盛岡市への避難者

⇒ 663所帯、1340人（平成27.6.19現在）

◆ 活動内容

- ・来館者 のべ68,313人
- ・個別訪問 のべ12,920件
- ・お茶っ子飲み会（毎週木・土曜日）
- ・囲碁将棋サークル
- ・学習支援サロン（毎週日曜日）
- ・つむぎサロン（不定期）
- ・その他、各種サークル

▲ もりおか復興推進しえあハート村の運営

■ しえあハート村の機能

- ・復興支援学生寮（シェアハウス）
- ・ボランティアの受け入れ（ボランティア番屋）⇒26年度で終了
※もりおか復興支援センターに機能を一部移管
- ・地域の方々にも利用頂くコミュニティカフェ
- ・復興支援団体の為のシェアオフィス
- ・就労支援施設【デジタルコンテンツ】
※デジタルコンテンツ関連の企業・クリエイターに対し、オフィス及び作業スペースを貸与
- ・地域コミュニティの交流支援事業⇒26年で終了
※市内と被災地とのコミュニティや市民団体等の交流を支援

▲ 復興支援学生寮シェアハウス

(平成24年4月開設)

○復興を担う人材育成の観点から、進学のために盛岡市へ移転してくる大学生・専門学校生を対象に、無償でシェアハウス（共同住宅）を提供。

○都市再生機構（UR）が保有していた区画整理に伴う仮住まい住宅用の物件前25棟のうち6棟を無償で借り受けスタート、26年度からは8棟で運営。

(物件については、H25.4.1 25棟すべて寄付される)

○現在、21名の学生が入居（定員30名）

【内 訳】・男女別 男性5名 女性16名

- ・出身市町村別 宮古市3名 大船渡市4名 釜石市2名
陸前高田市5名 山田町3名 仙台市1名 東松島市1名
- ・進学先別 大学13名 専門学校8名

○学生の主な困窮状況

住宅の全壊、両親の失業、減収など

○入居予定者の復興に対する思い

「看護師になって地元に戻り、復興に貢献したい」

「農業と自然双方の土木建築を研究し水害対策などに役立てたい」

「地元就職し、未来を担う子供たちの育成にかかわりたい」など

▲ 復興推進にかかる情報発信

復興支援ラジオ番組 製作事業	映像による情報発信と 人材育成事業	復興推進広報事業 (S t i t c hステッチ)
<input type="checkbox"/> 盛岡さんさFM 市が行う復興支援事業や市を拠点に活動する復興推進団体の情報を発信するラジオ番組の作成を行い、県内外へ盛岡の元気と復興推進情報の発信を行う。	<input type="checkbox"/> 市や被災市町村の中高生による被災地の今を伝える映像作品の制作上映を通じて、記憶の風化を防止するとともに、制作体験を通じて友情や地域愛の醸成を図る。	<input type="checkbox"/> 市が実施する復興支援事や被災地の復興支援状況などを、フリーペーパーの発行等により広く周知する。 (H27.3.11 VOL.15 発行)

▲ その他の復興推進事業

【地域経営推進費の活用による事業実施】

◆ 東日本大震災周年事業「復興への誓い」

盛岡広域8市町が主催

盛岡市・八幡平市・紫波町・矢巾町・岩手町・葛巻町・雫石町・滝沢市

<p>◆ 追悼式典</p> <p>追悼式その他講演映画製作等をおこない、復興への誓いを新たにしました。</p>	<p>多くの市職員もボランティアとして参加</p>	<p>◆ 祈りの灯火</p> <p>多くのボランティアが参加。灯籠の製作、当日の準備、後片付けまで行う。たくさんの市民が犠牲となった方々を追悼した。</p>
---	---------------------------	--

◆ 被災3県児童チャレンジ・キャンプ

○岩手・宮城・福島の児童が一堂に会し、交流を通じて友情をはぐくみ、復興を担う子供たちの育成を図る。

《所 感》

事業の説明をしえあハウス村のなかでうけました。復興の推進に関しては、多くの事業を絡めて効果を上げています。

その基本にあるのは、大きな震災を受けながら被害が少なかった盛岡市にとって、周辺自治体が受けた被害の大きさではなかったかなと思います。その上で県都としての自覚、使命のようなものを感じて手を差し伸べているのかなとも感じる。

しえあハート村自体、都市計画上の、移転を迫られた人達の一時の仮住まいであったということである。震災のタイミングが合ったにしても、そうはいかないのが実態です。

震災復興に関して、「地域に寄りそう」とは言うものの、震災避難者の受け入れから学生の無償受け入れ、地場産業に根差す震災情報の把握、ボランティアの派遣に関するコントロールを可能にする番屋。ベンチャーIT産業を育成すると雇用が増え、各産業が活性化し、なお震災の支援に結び付くように導いていく、事業費に関する費用対効果は、計り知れないと推察している。

震災から時間が経過し状況も変わってきて、平成26年度で多くの事業が発展的に再編される時期に来て、これからの方向性が問題になっているが、国、県、市の関わりの中でこういう事業の継続を検討していただきたい。

ここで青春時代を過ごした青年たち、周りの大人たち、双方にとっていい人生を送って頂きたい思いです。

【第3日】

秋田県鹿角市

人口約3万3000人 面積：707.34K㎡

≪視察項目≫

子どもが輝く学校教育の推進について

≪視察内容≫

教育支援事業として説明を受けました。

① かづのの宝育成支援補助金

② かづのの宝夢支援補助金

◆ 事業の目的

少子化対策、子育て支援の観点から保護者の経済的負担を軽減するため、第3子以降の児童生徒の学校教育に係る教育費の助成を計る。

◆ 対象者：

① 小学校、中学校に在籍する第3子以降のものを養育している保護者

② 高等学校等に在籍する第3子以降のものを養育している保護者

※第3子以降のもの・・・同一の戸籍謄本または出生届の受理証明書に記載されている出生年月日順に3番目以降のものとする。ただし、離婚等により養育していない子は数に含まない。

◆ 対象要件：

- ・鹿角市に平成27年1月1日現在で住民登録していること
- ・世帯内において市税及び鹿角市立小・中学校集金に未納が無いこと
- ・第3子以降のものが、1学期の始期に小・中学校、高等学校等に在籍し、今後も在籍する見込みであること
- ・①については、就学援助、特別支援教育就学奨励事業の認定を受けていないこと

◆ 事業費：平成26年度実績額 5,800,062円

平成27年度実績額 8,033,000円

◆ 補助金の額：

①小学校に在籍する第3子以降のもの一人につき、年額12,000円（月額1,000円）

中学校に在籍する第3子以降のもの一人につき、年額24,000円（月額2,000円）

②高等学校等が指定する教科書及び副教材購入にかかる費用（上限36,000円）

高等学校等授業料（月額9,900円を上限）

※但し、国が実施する高等学校等就学支援金制度対象外のものが負担する経費とする

◆ 補助金実績（平成26年）

①かづのの宝育成支援補助金 227名（231件）3,932,000円

@8000×1名=8,000円

@24000×97名=2,328,000円

@12000×133名=1,596,000円

②かづのの宝夢支援補助金		1,843,062 円
授業料補助	2名	237,600 円
教科書等購入	77名	1,605,462 円

《かづの夢創造 school 事業》

- ◆ 児童生徒にフェアプレーの精神や助け合うことの重要性を教えると共に、夢や目標を持って生きて行こうとする態度を養う。この授業を通して、仲間と協力して課題や目的を達成することの充実感や夢や目標を持って生きることを大切にする児童生徒を育てる。
- ◆ 対象者：市内全小学校5年生、中学校2年生の児童生徒
- ◆ 事業費：平成26年度実績額 小学校 1,480,000 円 中学校 1,520,000 円
平成27年度予算額 小学校 1,139,000 円 中学校 1,437,000 円
- ◆ 委託先：公益財団法人 日本サッカー協会

○ 「夢教室」の構成

「夢教室」は、90分を基本として構成されます。(中学校は100分)

前半35分(中学校40分)「ゲームの時間」

- ・オープニング
- ・ウォーミングアップ
- ・メインゲーム

目的達成のため、仲間と協力して1つの目標を達成するゲームを通して思いやりやフェアプレーの精神に基づいて、体を動かしながら学びます。

後半55分(中学校60分)

- ・夢先生の夢トーク
- ・みんなの夢・・・児童生徒が「夢シート」を記入し、発表します。
- ・記念撮影

自らの体験をもとに、「夢をもつ事、それに向かって努力する事の大切さ」、「仲間と協力することや、助け合うことの重要性」などを、日々努力を重ねている「夢先生」の言葉で子供たちに伝えてくれます。

◆ 成果と課題

- 夢や目標を持って日々努力をしたり、一生懸命ものごとに取り組んだりする児童生徒の育成に寄与
- トップアスリートとの出会いの新鮮さ、貴重さ
- 「本物」との出会いがもたらす刺激、視野の広がり、自己肯定感の高揚
- △スポーツ分野以外の「本物」に触れる機会の検討

《かつのふるさと・キャリア教育推進事業について》

- ◆ 目的：職場体験学習や地元企業人による講演などにより、勤労感や労働環境、社会・経済の仕組み等について理解し、児童生徒の社会人・職業人としての自立を促す機会を充実させる。

- ◆ 対象者：市内全小学校・中学校

- ◆ 事業費：平成26年度実績 191,560円
他課配当分 2,125,000円（キャリア教育推進員配置）
平成27年度予算額 175,000円

◆ 事業の概要：

- ①鹿角市のふるさと・キャリア教育について
前述

- ②夢探究プロジェクト「夢たん」について
前述

- ③「夢たん」ボランティアプロジェクトについて

目的・・・ふるさと鹿角で、児童・生徒が地域や企業などの社会や人に触れながら様々な活動を通して、意欲的に生きて行こうとする力や周囲と助け合って生きて行こうとする力を育ていけるよう支援します。また、ふれあいや体験を通して、「鹿角市民」としての意識の育成を図ります。

◆ 成果と課題

- 「夢探究プロジェクト（夢たん）」を本格実施し、多くの事業所の受け入れ協力があり、夢たんの活用も多かった。

△事業内容を各小学校に理解してもらうこと

△専門的な担当職員の配置とそれに伴う継続的予算措置

△受け入れ協力のある事業所の周知、積極的な活用

- ④ふるさと生き生きネットワーク事業について

目的：鹿角の美しい自然や人々との触れ合いを通じ、ふるさとの良さを体感し、特

別活動や総合的な学習の時間等でキャリア教育の視点を加味したふるさと学習の充実を図り、各校の特色ある教育活動を推進する。

◆ 事業費：一校 30 万円を上限とする

平成 26 年度実績額	小学校	2,465,000 円	中学校	1,473,000 円
平成 27 年度予算額	小学校	2,650,000 円	中学校	1,500,000 円

◆ 成果と課題

- 郷土を大切にしている心情の醸成、自分の地域の良さや可能性の実感、将来を切り開く態度等の育成
- 地域や企業等との連携によって、児童生徒の意見や考え等を反映した商品化の事例
- △同じ学区内での連携（小・小、小・中など）の一層の充実
- △活動内容のマンネリ化の見られる取り組み

《所 感》

教育県秋田の実力を垣間見た気がした。子どもが輝く学校教育という名目での研修ですが、兵庫県でもおなじような各事業の組み合わせはあります。

小学校での職場体験事業（トライアルウィーク）はありませんが、だからと言ってこんなに差が出るとは思えない。

教育長も同席しての研修であったので、詳しく伺った。この教育長は市役所出身であるそうで、事業の細部にわたる関連性を指摘されていた。それゆえに、事業費の執行状況に関して無駄のない管理をしているかのごとく、説明をしていた。

事業のそれぞれを見てみても、取り立てて大きな規模を示すものではなく就学補助金にしても、第3子以降に月1,000円である。金額的にはとてもたらないと思う。

では、なぜ全国学力テストで上位を維持できるのか、不思議である。結局は、どんなに事業が多くても、金額が出ていても、所詮は効率的に事業を実施することなのか。もっと研修が必要だと感じた。

平成 27 年 7 月 16 日

小野市議会議長 前田 光教 様

総務文教常任委員会
河 島 三 奈

行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成 27 年 7 月 1 日（水）～平成 27 年 7 月 3 日（金）

2 視察メンバー

竹内修委員長 河島三奈副委員長 平田真実委員 椎屋邦隆委員
河島信行委員 前田光教委員 岡嶋正昭委員 加島淳委員

3 視察先及び調査内容

(1) 岩手県二戸市（人口：約 2 万 9 千人、面積：約 4 2 0. 3 1 K m²）

にのへブランド海外発信事業について

座学として二戸市役所において二戸市総合政策部政策推進課の課長から説明を受ける。

- ・にのへブランド海外発信事業事業概要
目的・概要・背景・成果・課題・費用対効果など

(2) 岩手県盛岡市（人口：約 2 9 万 5 千人、面積：約 8 8 6. 4 7 K m²）

もりおか復興推進しえあハート村について

現地視察、座学にて 3 事業の説明を受けその後、施設内を見学。

- 復興推進事業 総務部聞き管理防災課副主幹 佐藤さんより説明
 - しえあハート村 おせわ係 木津川さんより説明
 - デジタルコンテンツ産業集積支援事業 三浦代表理事より説明
- シェア施設を見学。

(3) 秋田県鹿角市（人口約3万3千人、面積約707.34Km²）

子どもが輝く学校教育の推進について

鹿角市役所において座学、基本3事業の説明を受ける。

鹿角市教育委員会総務学事課 児玉主査より説明。

オブザーバー出席 畠山義孝鹿角教育長。

教育費支援事業について

夢教室について

ふるさと・キャリア教育について

4 調査結果

【第1日】

岩手県二戸市

人口約2万9千人 面積 約420.3Km²

《視察項目》

にのへブランド海外発信事業について

《視察内容》

「小さな市の大きな挑戦」としてテレビでも紹介された取組だが、実は市内の酒造会社が10年前から自社の「南部美人」というお酒を海外に向けて売り込んでいた事業に市として参加した形になる。平成25年から27年の三か年計画でニューヨークの公邸でPRをしている。本年はその最終年にあたる。

目的は、海外発信に乗り出すことを、シティプロモーションの一環に位置付け、特産品の販路の拡大とブランドイメージの向上を図り、なおかつ他地域との差別化、それによる地場産業の振興を図ることである。海外で好評価を得、それを看板に日本での販路確保といういわゆる逆輸入の形式を目指している。

この事業を始める背景としては、漆や漆器など二戸には良いものはたくさんあるのに、PR不足で知名度がない、また一年を通しての安定した収入の確保が難しいため後継者不足に拍車をかけている。

よってこの事業に期待する効果は、海外での評価を向上させそれを国内に波及させることで、市のイメージと知名度を上げ、「所得を得られる」産業として後継者の確保と新たな販路の拡大を狙っている。

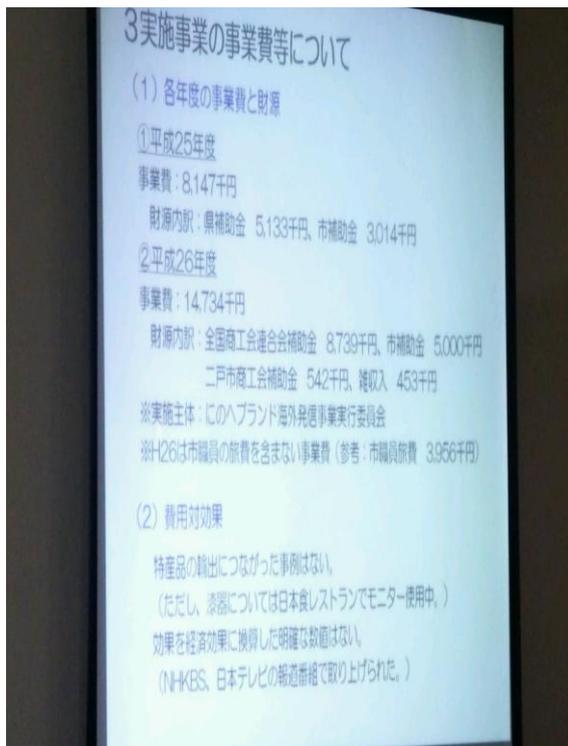
事業の概要は、平成25年と26年のニューヨークを中心とするレセプションでは、平成25年地酒の「南部美人」漆、漆器について、平成26年二戸市とはこんなところと地域と漆についてより深くプレゼンをした。26年はニューヨークのレストラン3か所にも協力を願い、地元の農産物を使った料理を提供したりして事業を拡大し、事業費にも補助金などを増額して臨んだ。27年にむけては、海外で通用するブランド力の確立と継続的な情報発信、商取引の実現を目指す。現在では輸出につながった実績はまだない。

課題は、特産品に関しては本当に興味のある人たちを対象に事業を考えなければいけないこと、国内生産体制の整備をすること、ブランド戦略をアメリカ、ヨーロッパ、アジアなど相手によって臨機応変に対応することである。

成果は海外の方からの特産品に対する高い評価をいただいたこと、人的なネットワークができたこと、輸出に関する事務手続きのノウハウを学べたことがある。

《所 感》

伝統産業というものはどこでも同じで、商業ベースに乗りにくいものなのだと再実感した。そこには日本独特の感覚、観念があり、ビジネスになりにくいとは思いますが、最近では日本独自の文化に感銘を受け、外国人が伝統産業の道を目指す例も出てきているので、時間はかかるのだろうが、継続して情報を発信していく事で外国に浸透すること、日本の名を高めることに対する挑戦は途絶えることなく、継続、拡大することが大切だと思う。社会のグローバル化が叫ばれる中、子供の教育の面からももっと地元の伝統を強化していくべきではないかとも思う。小野市における裁ち鋏、そろばんもこの例にもれず、力を入れていくべきだと思った。



【第2日】

岩手県盛岡市

人口 約3万3千人 面積 約886.47Km²

≪視察項目≫

もりおか復興推進しえあハート村について

≪視察内容≫

しえあハート村は平成25年4月から発足し、東日本大震災の被災者で盛岡に進学した学生に一戸建ての住宅を無料で貸す事業である。区画整理の借り住まいに立てられた住宅を再利用した形になるので、平成28年には公園にするために取り壊しが予定されている。現在21名の学生が生活しており、加えてデジタルコンテンツ産業集積支援事業というデジタル産業に特化した市の推進事業で集まった会社への貸与もしているので、取り壊しのあと、どのようにこの事業を継続してゆくかが問題である。

地域の方の協力や、人同士の縁によってだんだん充実した生活環境になってきている。住宅の周りに花を植えることで「町に色」をつけ、看板の設置や、植栽の花もボランティアさんが無償で分け与えてくれる。月に1回の「ごはんの会」では学生みんなでご飯をつくり、みんなで食べることで交流の場になり、ワークショップで出し合った意見は次年度に反映され、よりよい生活環境を自分たちで作りに上げている。情報発信として、フラッグアートへの出品や、自分たちで作成した動画ラジオ番組をYouTubeで情報発信をしている。また平成24年11月から月命日にあたる11日に必ず灯をともしことで震災の記憶を風化させないために継続している。また、市の震災復興映画制作作品の「ひとつ」でもロケ地として活用された。

≪所感≫

取り壊しを待つばかりの仮設住宅をととてもよい形で再利用できたと思う。できればこのまま継続していければよいと思うが、震災後4年になり無償貸与という形は、はたしてよいのかが少しだけ疑問に感じた。緊急対策の事業も終了に近づき、デジコン事業について懸念が残る。若い世代の起こした動きを完璧なビジネスとして構築できるのか、どう残していくのかが大きなこれからの課題と思う。小野市に置き換えてみれば、商店街の空き家を利用していけるのなら、将来的に実りのある事業だと思う。これからのまちづくり特に「持続可能なまちづくり」を目指すうえでよい参考事例になった。



【第3日】

秋田県鹿角市

人口 約29万5千人 面積 約886.47Km²

《視察項目》

子どもが輝く学校教育の推進について

《視察内容》

主幹3事業について説明を受ける。教育費支援事業については、第3子以降の教育費を高校まで無償化している。通常高校は所管が県になるので、市では関与しないが、鹿角市では市長の強い思いから行政の垣根を越えて実施している。子育て支援による所も大きく、その他にも子育て支援施策の充実を訴えて医療費の無料化も実施されている。

鹿角市には小学校9校、中学校5校、高校2校があり、中規模校、小規模校に分けられ、人数は小学校460～20、中学校280～60人となっている。

夢教室といわれる主にスポーツ面で有名な方を講師に招き、子供たちに夢を持つことの大切さ、挫折を味わったことなど、話して頂く時間を作っている。

JFA と自治体が協定を結ぶことによって講師と生徒の学びになり、且つ自治体の日本全国への宣伝にも一役買っている、相互連携の形をとっている。きっかけとしては、子供たちへのアンケート調査を実施した中で、「将来の夢はあるか」という問いに対して、ポイントが少なかったからで、この事業実施後はポイント数が 20 アップしたことや、子供たちの問題行動の減少など、成果を感じている。夢たんといういわゆる職業体験学習にも力を入れており、兵庫県で言うところのトライやるウィークのことだと思うが人気の職種には偏りが出、また広い土地ならではの移動距離などの問題が浮き彫りになっている、これからは、自分には何があるのかを見つけ出すプログラムを考えていきたいことと、受け入れ企業との連携をもっと進めて行かなければいけないことが課題である。

《所 感》

秋田県といえば全国学力審査で1位をとるなど、教育に力を入れているイメージが強い。けれども実際は、地域内での子供の立ち位置がいわゆる都市部の子供たちとは違うのであろうと感じた。田舎ゆえの流行へのタイムラグ、雪国ならではの選択肢の狭さ、「仕方がないから、勉強でもするか」的な諦念感があるのだろうと思う。移動ができないから、家庭学習の時間が多い、食も動かないから、すべて自家製などの物理的な問題がその実、学力向上への後押しになっているのではないかということだ。都市部では、情報が溢れ、子供だけの移動も容易である。そんな誘惑の多いところで、戦いながら勉強するというのも一理あるが、狭い世界で折り合いをつけながら自分をコントロールしていく状況はとてもよい世界なのだろうと推測した。地域の狭隘が優秀な人間を作り、外へ出てゆく、その人材が早い段階で故郷に帰ってきてくれれば、田舎、都市部の関係なく日本全体がステップアップしてゆくはずと強く感じた。結局市にとって一番大切なことは、小野市に生まれた子に、最後まで小野市で暮らしてもらうこと。そのために小野市を魅力的な土地にしなくてはならないということを確認した。



平成 27 年 7 月 10 日

小野市議会議長

様

総務文教常任委員会

平 田 真 実

行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成 27 年 7 月 1 日（水）～平成 27 年 7 月 3 日（金）

2 視察メンバー

竹内修委員長、河島三奈副委員長、椎屋邦隆委員、河島信行委員、前田光教委員、岡嶋正昭委員、加島淳委員、平田真実委員、随員：上月美保課長補佐

3 視察先及び調査内容

(1) 岩手県二戸市（人口：約 2 万 9 千人、面積：420.31K m²）

にのへブランド海外発信事業について

地域特産品を海外でPRすることによる、他の地域との差別化を図った、市のブランドイメージ向上、また海外での評価・実績を日本国内にフィードバックし、国内での市場開拓・販路拡大に繋げ、地場産業の推進を図る為の取り組み

(2) 岩手県盛岡市（人口：約 29 万 5 千人、面積：886.47K m²）

もりおか復興推進しえあハート村について

東日本大震災を経験し、復興推進する中での防災危機や、被災者・被災地の自立を支援する取り組み

(3) 秋田県鹿角市（人口：約 3 万 3 千人、面積：707.34K m²）

子どもが輝く学校教育の推進について

社会を通じた構造的問題を抱える現代で、一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な能力や態度を育てるキャリア教育

4 調査結果

【第1日】

岩手県二戸市

人口 2万9千人 面積 420.31 Km²

《視察項目》

このへブランド海外発信事業について

《視察内容》

“小さなまちの大きな挑戦”と題し、二戸市の地酒である「南部美人」と「浄法寺漆」を官民一体となってニューヨークへ発信している。平成25年度からの事業で、ニューヨークで定着しつつあるSAKEにプラス1の発想で、地酒+漆器を前面にアピールし、商品の展示だけでなく、漆塗りのデモンストレーションを行う事で、質の良さや価値を分かりやすく伝えている。3万人都市でこのように市をあげて海外に発信している事業は非常に珍しく、メディアにも取り上げられた。

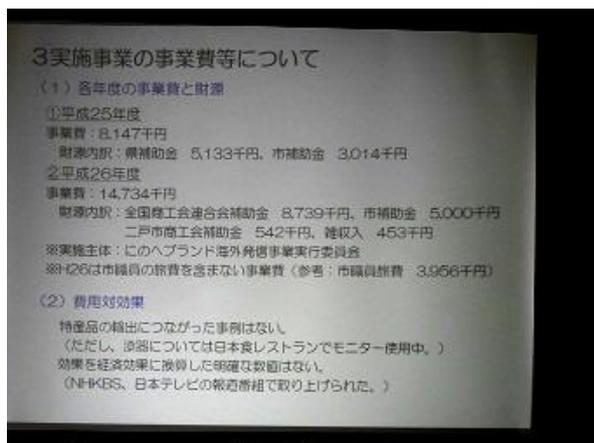
漆器づくりに関しては仕事が細分化されており、特に樹液を採る仕事で後継者不足に陥っている。漆塗りの職人は行政でのサポートの結果、現在では若い職人が独立している為、平成27年度は漆や日本酒を中心に世界に誇れる特産品の魅力を最大限高め、海外で通用するブランドを確立し、二戸市の魅力を丁寧に伝えながら、販路拡大、展示会への市場調査を行い、継続的な情報発信と商取引の実現を図る。

平成25年・26年の成果

- ・特産品の高い評価
- ・人的ネットワークの構築
- ・農産物の輸出に関する手続きなどの構築

今後の課題

- ・本当に興味がある人へ訴求するPR
- ・国内生産体制の整備
- ・二戸ブランドの再構築



《所 感》

市の特産品を海外に PR し、評価してもらえる事は、その地域住民にとっても地元への愛着や誇りに直結し、特に若い世代の地元への関心を高める取り組みでもあったと感じた。現在も後継者不足に悩まされているが、特に漆塗りの職人は若い世代から職人を希望し、独立につながっている点は大変興味深かった。また、「トップが訴えることが重要」とのことで、市長が海外での PR に力を入れておられる点も非常に素晴らしいと感じた。

小野市に於いても、地場産業の後継者不足が問題となっている。若い人が職人という職種に興味を持ち、職人を育てることができる体制をとるべく、市としてサポートできることを考えなければならない。

【第2日】

岩手県盛岡市

人口 29万5千人 面積 886.47 Km²

《視察項目》

もりおか復興推進しえあハート村について

《視察内容》

岩手県総務部総合防災室

平成27年5月31日現在

1 平成23年3月11日(本震・津波)及び4月7日(余震)に係る被害状況

	死者数(人)			行方不明者数(人)	うち、死亡届の受理件数(件)	負傷者数(人)	家屋倒壊数(棟)
	直接死	関連死	計				
陸前高田市	1,556	46	1,602	207	203	不明	4,041
大船渡市	340	77	417	79	75	不明	3,937
釜石市	888	103	991	152	152	不明	3,655
大槌町	803	51	854	426	424	不明	4,167
山田町	604	82	686	148	147	不明	3,167
宮古市	420	53	473	94	94	33	4,098
岩泉町	7	3	10	0	0	0	200
田野畑村	14	3	17	15	15	8	270
普代村	0	0	0	1	1	4	0
野田村	38	1	39	0	0	19	479
久慈市	2	1	3	2	2	10	278
洋野町	0	0	0	0	0	0	26
沿岸小計	4,672	420	5,092	1,124	1,113	74	24,318
内陸小計	0	33	33	5	4	136	1,845
計	4,672	453	5,125	1,129	1,117	210	26,163

※死者数のうち、直接死は岩手県警調べ、関連死は岩手県復興局調べ

※家屋倒壊数は、全壊及び半壊数を計上

※下線表示は、前回公表からの変更点

平成23年3月11日(金)に発生した東日本大震災における地震と津波による被害を受けた岩手県の復興にあたり、盛岡市の復興推進体制や取組方針から防災危機などについて研修を受けた。

東日本大震災に係る岩手県の人的被害・建物被害状況一覧は左記の表の通りである。

(いわて防災情報ポータルより引用)

盛岡市内では直接死の被害はなかったものの、アイスアリーナ施設の天板が約200枚落下し、何日も市内全域にわたり停電が続くなどの被害があった。また、沿岸部から避難生活を送る被災者の支援を進めている。

- ・災害対策本部の設置
(平成 23 年 3 月)
- ・復興推進部の設置
(平成 23 年 4 月)
- ・復興推進の取組方針の策定
(平成 23 年 6 月)

復興推進の取組方針については、長期的に支援する責務と、被災者・被災地が自立・自覚することが大切だという考えを元に、この点をフォローするということを基本的な主な方向として取り組んでいる。

盛岡市の復興推進事業として、①もりおか復興支援センターの運営②もりおか復興推進しえあハート村の運営③復興推進情報の発信④その他の事業 という、4つの事業を行っている。

今回の研修では、平成 25 年度に地域の住民や NPO などと協働し、復興支援学生寮の周辺を新たな震災復興の推進拠点として整備した、もりおか復興推進しえあハート村を案内して頂き、実際にどのような事業を行っているのか学んだ。

しえあハート村の機能

- ・復興支援学生寮（シェアハウス）
- ・ボランティアの受入れ→平成 26 年度で終了
- ・地域の方々にも利用いただくコミュニティカフェ
- ・復興支援団体のためのシェアオフィス
- ・就労支援施設（デジタルコンテンツ）
- ・地域コミュニティの交流支援事業→平成 26 年度で終了

復興を担う人材育成の観点から、住宅全壊や両親の失業などの困窮状況にあり、進学のために盛岡市へ転入してくる大学生・専門学校生を対象に、UR が保有していた仮設住宅を無償で借受けた棟でのシェアハウスを無償提供している。入居学生は「いつか地元で貢献したい」などの復興に対する思いを持っており、しえあハート村でも学生と共に様々な側面から復興を後押ししている。

また、しえあハート村内にはシェアオフィスもあり、盛岡にデジタルコンテンツ産業を育て、日本、アジアそして世界に通じる人材育成を目指し、デジタルコンテンツに特化した企業やクリエイターの事業活動拠点としての取り組みである、デジタルコンテンツ産業集積支援という事業もされており、東日本大震災の復興支援を行う団体を対象に、期間限定ではあるがオフィスの無償貸出をしている。



写真左) しえあハート村にて。学生は写真のような一軒家をシェアハウスしている。
写真右) しえあハート村内のコミュニティスペースでは学生や地域住人による作品の発信の場ともなっていた。

《所 感》

しえあハート村では周辺住人の方々もボランティアにかけつけて下さるなど、地域全体で被災地の復興を考え、そして学生たちが安心して帰れるところ・ぐっすり眠れる場所を作っていた。災害時は、阪神淡路大震災の教訓を生かした避難所づくりがなされたとのことであった。私たちも災害時に備え、改めて備蓄の大切さを痛感した。

また盛岡市での取り組みからは、将来を担う人材の育成という観点を感じる事が多く、これは小野市に於いても大切な視点であると考えます。

若者世代の流出が都市部へ流れる中で、地元へ貢献したい若者をサポートするような事業や、地元からでも世界に通用できるような人材になり、そこからさらに雇用が生まれるようなサポートを考えていかなければならないと感じた。

【第3日】

秋田県鹿角市

人口 3万3千人 面積 707.34 Km²

《視察項目》

子どもが輝く学校教育の推進について

《視察内容》

鹿角市は、東北北三県のほぼ中央に位置し、きりたんぼ発祥の地ともいわれている。子どもが輝く学校教育の推進として、以下の事業に取り組んでいる。

●教育費支援事業

少子化対策、子育て支援の観点から保護者の経済的負担をけいげんするため、第3子以降の児童生徒の学校教育に係る教育費の助成。

●かづの夢創造 school 事業

児童生徒にフェアプレー精神や助け合うことの重要性を教えるとともに、夢や目標をもって生きていこうとする態度を養い、仲間と協力して課題や目的を達成することの充実感や夢や目標を持って生きることを大切にする児童生徒を育てる目的として、日本サッカー協会に委託し、トップアスリートに“夢先生”となってもらい、実際に体を動かしゲームをし、夢先生と夢についてのトークの時間を設け、「夢を持つこと、それに向かって努力することの大切さ」などを学ぶ。

●かづのふるさと・キャリア教育推進事業について

職場体験学習（夢探究プロジェクト）や地元企業人による講演、鹿角の美しい自然や人々との触れ合いから、ふるさとの良さを体感し、キャリア教育の視点を加味したふるさと学習（ふるさと生き生きネットワーク事業）などにより、勤労観や労働環境、社会・経済の仕組み等について理解し、児童生徒の社会人・職業人としての自立を促す機会を充実させ、将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を身につけるとともに、ふるさと鹿角を自分が支えようとする強い気概をもった子どもたちを育成する。

かづの夢創造 school 事業の成果として、夢や目標をもって日々努力したり、一生懸命ものごとに取り組んだりする児童生徒の育成に寄与しており、トップアスリートとの出会いの新鮮さ・貴重さから、「本物」との出会いがもたらす刺激、視野の広がり、自己肯定感の高揚などが挙げられる。今後の課題として、スポーツ分野以外の「本物」に触れる機会の検討をしている。

かづのふるさと・キャリア教育推進事業では、夢探究プロジェクトの成果として、多くの事業所の受入協力があり、このプロジェクトの活用が多かったこと、また課題としては、事業内容を各小中学校に理解してもらう為に、専門的な担当職員の配置とそれに伴う継続的予算措置、受入協力のある事業所の周知、積極的な活用とした。

ふるさと生き生きネットワーク事業では、郷土を大切にする心情の醸成、自分の地域の良さや可能性の実感、将来を切り拓く態度等の育成や、地域・企業等の連携により、児童生徒の意見や考えを反映した商品化の結果につながった点を成果として挙げ、今後の課題は同じ学区内での連携の充実や活動内容のマンネリ化が挙げられる。



写真右) 研修後、鹿角市議会の議場にも案内して頂いた。

《所 感》

鹿角市の取り組みの中でも特に興味深かったのは、かづの夢創造 school 事業のトップアスリートから児童生徒が直接学ぶ機会があるという点である。自身を振り返っても、トップアスリートに抱いた夢は大きく、実際にトップアスリートから学ぶことができることは、児童生徒にとって非常に大きなことであると感じた。この取り組みを通じ、小・中学校のアンケートにおいて、「夢を持っている」と回答した児童生徒が 20%程上昇する点からもこの事業の成果は見える。鹿角市では、子どもが夢を抱けることができる環境をつくっているだけでなく、郷土を大切にし、鹿角市を支えていく人材育成にも力を入れており、少子化がすすむ中で小野市においても考えていかなければならない課題であると再認識した。

平成27年7月10日

小野市議会議長 前田光教様

総務文教常任委員会
椎屋邦隆

行政視察報告書

先般、実施しました総務文教委員会行政視察の結果について、下記の通り報告致します。

記

1 視察実施日 平成27年7月1日（水）～平成27年7月3日（金）

2 視察メンバー

総務文教常任委員会 正・副委員長及び委員

3 視察先及び調査内容

(1) 岩手県二戸市（人口：2万8千人、面積：420.31km²）

にのへブランド海外発信事業について

- ・当該事業の目的及び事業内容は、具体的にどのようなものか。
- ・二戸市の特産品は、海外で、どのような評価を得たのか。
- ・当該事業の成果と課題を、どのように分析したのか。

(2) 岩手県盛岡市（人口：29万5千人、面積：886.47km²）

もりおか復興推進しえあハート村について

- ・当該復興推進施策は、具体的にどのようなものか。
- ・しえあハート村が被災地復興に貢献している点は。
- ・当該事業の今後の課題について。

(3) 秋田県鹿角市（人口：3万3千人、面積：707.34km²）

子どもが輝く学校教育の推進について

- ・教育費支援事業についての調査。
- ・かづの夢創造school事業の詳細についての調査。
- ・鹿角市ふるさと・キャリア教育推進事業についての調査。

4 調査結果

【第1日】

岩手県二戸市

人口 2万8千人、 面積：420.31 km²

《視察項目》

このへブランド海外発信事業について 総合政策部政策推進課課長の説明

《視察内容》

- 二戸市が誇る浄法寺漆や南部美人（日本酒）などの地域特産品を海外（ニューヨーク）で、PRすることにより、他の地域・自治体との差別化を図り、二戸のブランドイメージの向上を図る。また、海外での情報発信と販路開拓を展開し、海外での評価・実績を国内での市場開拓・販路拡大に繋げることで、地場産業の振興を図るというのが事業の目的である。
 - 平成25年度には、米国ニューヨークの総領事・大使公邸において、セミナーと二戸市レセプションが開催された。レセプションでは、いわて和牛や特別栽培米いわてっこ、南部せんべい等が参加者に提供された。特産品はもちろん、漆についても文化的な価値と合わせて高い評価がなされたとの事である。
 - 平成26年度もニューヨークにおいて、政府・自治体関係者プレスメディア、漆・美術関係者を招待したパーティーを開催している。日本食トップシェフが調理したメニューは、盛り付けの美しさが漆器の美しさとの相乗効果で、参加者に感動を与えたようである。
- ① 事業の成果
 - 特産品には、高い評価が得られた。
 - 人的なネットワークが、築かれた。
 - 輸出に関する手続き等の蓄積が図られた。
 - ② 課題
 - 本当に興味のある方々への訴求するPRが必要である。
 - 国内生産体制の整備が必要である。
 - 二戸市のブランド戦略を再構築する必要がある。

《所感》

- ・「ちいさなまちの大きな挑戦」として取り組む市の姿勢は、尊敬に値する。
- ・日本文化を広め、地元の特産品の良さのPRには成功しているが、市場開拓や販路拡大などの成果に繋がっていないのが、惜しいところである。
- ・小野市の特産品を国内だけでなく、海外へ展開する可能性もあると思う。

【第2日】

岩手県盛岡市

人口：29万5千人、面積：886.47km²

≪視察項目≫

もりおか復興推進しえあハート村について 総務部危機管理防災課課長

≪視察内容≫

○東日本大震災に係る盛岡市の復興推進事業

・基本的な方向

- ①被災者・被災地自立を支援する。
- ②ハブ(結節点)・コーディネーターとしての役割・機能の発揮する
- ③「つながり」と「連携」により復興を加速する。

・取組の4つの柱

- ① 内陸避難者支援
- ② 沿岸被災地後方支援
- ③ 経済の牽引
- ④ 情報・元気の発信

・復興支援学生寮シェアハウスについて

復興を担う人材育成の観点から、進学のために盛岡市へ転入してくる大学生・専門学校生を対象に、無償でシェアハウス(共同住宅)を提供。

現在21名の学生が入居していた。入居者たちは、自分達の家が全壊したり、両親が失業したりして盛岡へ来た人達である。復興に対する思いとして、「看護師になって、地元に戻り、復興に貢献したい。」「農業と自然双方の土木建築を研究し水害対策に役立てたい。」「地元就職し、未来を担う子ども達の育成に携わりたい。」等の高い志を持っていた。

実際に、すでに被災地の県庁職員に採用されて活躍している人もいる。また、今年、国家公務員試験の1次を突破した学生もいるとの事である。

・デジタルコンテンツ産業集積支援事業について

デジタルコンテンツ産業に特化したシェアオフィスや作業スペース、管理棟及び協業棟について管理運営。スキルの向上、人材育成、関連企業の新規立地誘導、新分野進出、共同受注体制の構築を行う取組である。

≪所 感≫

東北大震災から4年が経ち、近畿地方に住む我々は、どれだけ被災地の方々の心に寄り添えているのだろうかと考えさせられた。原発事故の福島県から2県隣の岩手県盛岡市で、多くの人々が、被災地の若者達の学業達成のために、手を差し伸べていた。東北の人々には、何か温かいものが感じられた。単に経済支援だけでなく、目に見えない心の繋がりをこれからも忘れてはいけないと思う。

【第3日】

秋田県鹿角市

人口：約3万3千人、面積：707.52km²

≪視察項目≫

子どもが輝く学校教育の推進について

鹿角市教育委員会 畠山義孝教育長 総務学事課 石井和光管理監
市議会事務局 和田寛美主幹 児玉愛子主査

≪視察内容≫

〈教育費支援事業〉

① かづのの宝育成支援事業

② かづのの宝夢支援事業

○目的 少子化対策、子育て支援の観点から第3子以降の児童生徒の学校教育に係る教育費の助成を行う。

対象 小・中・高校に在籍する第3子以降の者を養育する保護者

事業費 平成27年度予算額 約800万円

補助金額 小12000円 中24000円 高36000円+授業料

③ かづの夢創造 School 事業

○目的 児童生徒にフェアプレーの精神や助け合うことの重要性を教えるとともに、夢や目標をもって生きていこうとする態度を養う。

対象 市内全小学校5年生、中学校2年生の児童生徒

事業費 平成27年度予算 小 1,139,000円、中 1,437,000円

委託先 公益財団法人 日本サッカー協会

④ かづのふるさと・キャリア教育推進事業

○目的 職場体験学習や地元企業人による講演などにより、勤労観や労働環境、社会・経済の仕組み等について理解し、児童生徒の社会人・職業人としての自立を促す機会を充実させる。

対象 市内全小・中学生

⑤ ふるさと生き生きネットワーク事業

○目的 鹿角の美しい自然や人々とのふれあいを通じ、ふるさとの良さを体感し、特別活動や総合的な学習の時間等でキャリア教育の視点を加味したふるさと学習の充実を図り、各校の特色ある教育活動を推進する。

事業費 1校30万円

≪所感≫

鹿角市の学校教育の中で、様々な取組をして、地元の偉人和井内貞行や内藤湖南の様な立派な人物に育てようという意気込みが感じられた。こちら夢と希望の教育、16カ年教育等の取り組みの資料を渡して小野市をPRした。

平成27年7月8日

小野市議会議長 様

総務文教常任委員会
河島 信行

行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成27年7月1日（水）～平成27年7月3日（金）

2 視察メンバー

総務文教常任委員会 正副委員長および委員

3 視察先及び調査内容

(1) 岩手県二戸市（人口：約3万人、面積：420.31Km²）

「にのへブランド海外発信事業」について

- ・二戸市の特産品を海外でPRした効果について
- ・海外PRの主な理由
- ・商品販路拡大に繋がったか
- ・地方都市の海外販路拡大策の成果と課題は

(2) 岩手県盛岡市（人口：約30万 千人、面積：886.47Km²）

「もりおか復興推進しえあハート村」について

- ・盛岡市は岩手県内陸部の市かつ県庁所在地の市でもあり、復興支援を果たすべきである

(支援の具体的取り組みのひとつ)

- ・「もりおか復興推進しえあハート村」を設立した。

(3) 秋田県鹿角市（人口：約3万3千人、面積：707.52Km²）

『子どもが輝く学校教育の推進』について

- ・鹿角市の教育支援事業の具体的な事業について

4 調査結果

【第1日】

岩手県二戸市

人口：約3万人、面積：420.31Km²

《視察項目》

1 「このへブランド海外発信事業」について

(この事業の目的)

- ① 特産品（浄法寺漆や南部美人・日本酒）を海外（USA ニューヨーク）でPRし、二戸のブランドイメージの向上を図る。
- ② 海外での実績を日本国内での市場開拓に繋げる。

(事業の概要)

① 在ニューヨーク総領事・大使公邸での二戸市レセプション

日時 平成25年8月27日

内容 セミナー（浄法寺漆や南部美人・日本酒・南部せんべい）開催

② このへシティフェア IN ニューヨーク

日時 平成25年8月28日～9月6日 会場 ニューヨーク共同貿易

③ オープニングレセプション

日時 平成26年10月3日 会場 EN Japanese Brasserie

④ 二戸市レストランフェア

日時 平成26年10月2日～10月5日 会場 EN Japanese Brasserie

《視察内容》

(説明者) 二戸市総合政策部政策推進課

- ・農業、林業の市 山が多い。漆の生産地（高価である。）
- ・旧 南部藩（江戸時代）
- ・日本酒、『南部美人』や漆などの特産品をUSA ニューヨーク市へPRの実施。
- ・販路拡大が主たる目的である。（国内では頭うちである。）
- ・情報発信が販路拡大に繋がる。

(市からの補助金)

- ・300万円（平成25年度） 500万円（平成26年度）

(市と事業主との連携)

- ・発端は、企業の元気な社長のリーダーシップで、『協議会』を設立した。
- ・漆の製品化については専門職人の育成が課題である。

《所 感》

- ・ 地方都市の抱えている現状、課題は小野市でも同様である。
- ・ 特産品を商品化して、販路を広げることは厳しいものがある。
- ・ 小野市においても中心市街地の商店街の活性化のための企画はあるが一過性である。

【第2日】

岩手県盛岡市

人口：約30万 千人、面積：886.47 Km²

もりおか復興推進しえあハート村について

盛岡市は岩手県の所在地（盛岡市）としての自覚をもち役割を遂行している。

「もりおか復興推進しえあハート村」の視察

《視察項目》

- ・ 盛岡市の復興支援の実践について
「もりおか復興推進しえあハート村」の役割と成果について

《視察内容》

- 1 東日本大震災に係る盛岡市の復興推進事業
- ・ 基本方針
被災者・被災地自立の支援
ハブ（結節点）・コーディネーターとしての役割・機能の発揮
「つながり」と「連携」により復興を加速
 - ・ 取 組
 - ① 内陸避難者支援
 - ② 沿岸被災地後方支援
 - ③ 経済の牽引
 - ④ 情報・元気の発信
 - ・ 拠点施設
 - ① もりおか復興支援センター（盛岡市役所の隣）
 - ② もりおか復興推進しえあハート村の運営
 - ③ 復興推進情報の発信

《所 感》

- 1 「もりおか復興推進しえあハート村」について
（ 役 割 ）
震災復興の推進拠点である。

(組 織)

地域の住民や NPO などと協働して、本宮地区の復興支援学生寮の周辺を新たな震災復興推進拠点としている。

(機 能)

- ・復興支援学生寮の設置
- ・コミュニティカフェの設置
- ・シェアオフィス（復興支援団体の）
- ・就労支援施設（デジタルコンテンツ）

【第3日】

秋田県 鹿角市

人口：約3万3千人、面積：707.52 Km²

≪視察項目≫

「教育支援事業」について

≪視察内容≫

1 かづのの宝育成支援補助金

2 かづのの宝夢支援補助金

(目 的)

少子化対策、子育て支援の観点から保護者の経済的負担の軽減施策である。

(対象者) 第3子以降の児童生徒

(要 件)

- ・市民であること。
- ・小中学校の集金の納入者
- ・就学援助、特別支援教育就学奨励事業の認定を受けていない小中学生

(事業費)

580万円 (平成26年度実績)

800万円 (平成27年度 予算額)

3 かづの夢創造 school 事業

(目 的)

児童生徒が夢や目標をもって生きていく態度を養う。

(事業費)

- ・小学校 150万円 中学校 150万円 (平成26年度実績額)
- ・小学校 114万円 中学校 144万円 (平成27年度予算額)

(委 託 先)

日本サッカー協会

4 「かづのふるさと・キャリア教育推進事業」について

(夢探求プロジェクト「夢たん」 ～職場体験学習支援～)

(目 的)

職場体験学習や地元企業人による講演などを聞き、勤労観や社会・経済の仕組み等を理解し、社会人・職業人としての自立を促す。

(事業費)

20万円 (平成26年度実績額)

18万円 (平成27年度予算額)

(主な説明者)

総務学事課	学事指導管理監	石井和光
	主査	児玉愛子

《所 感》

- ・少子化対策の一環の施策である。
- ・少子化対策は、全国共通の課題である。

平成27年7月17日

小野市議会議長
前田光教様

総務文教常任委員会
前田光教

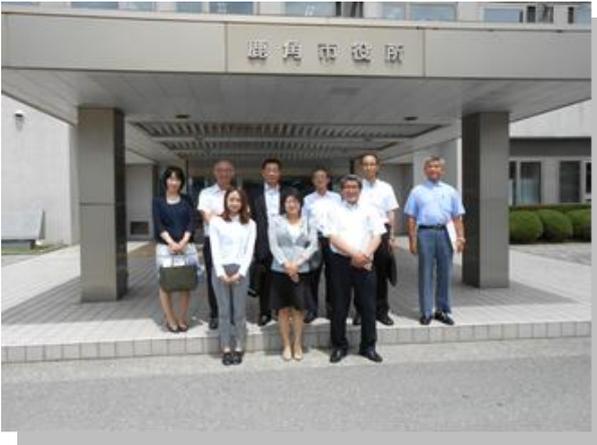
行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について
下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成27年7月1日（水）～平成27年7月3日（金）

2 視察メンバー（総務文教常任委員会）



竹内修（委員長）
河島三奈（副委員長）
平田真実
椎屋邦隆
河島信行
前田光教
岡嶋正昭
加島淳
上月美保（議会事務局）
（鹿角市役所前）

3 視察先及び調査内容

- （1）岩手県二戸市 「にのへブランド海外発信事業について」
- （2）岩手県盛岡市 「もりおか復興推進しえあハート村について」
- （3）秋田県鹿角市 「子どもが輝く学校教育の推進について」

4 調査結果

[第1日目岩手県二戸市]

人口 28,669人 11,811世帯（平成27年4月1日現在）

面積 420.31km² 人口密度 68.21人/km²

●二戸市の概要等

- 国産漆の約70%を生産している日本一の漆の産地
- 明治35年創業の造り酒屋、南部杜氏の伝統技法を用いた「南部美人」（日本酒）
- 将来的にはマディソンスクエアガーデンでイベントを目指す
株式会社南部美人代表取締役社長久慈浩介氏を中心とする実行委員会の存在

二戸市は、岩手県内陸部の最北端に位置し、奥羽山脈と北上山地の間を流れる馬淵川が市の中心部を北流しその河岸段丘に市街地が広がっており、JR東北新幹線と国道4号線が南北に並行している。また、四方の展望のきく折爪岳（標高852.2m）は、高山・亜高山系の植物が繁茂し、夏には北東北有数の生息地といわれるヒメボタルの群舞が見られ、自然があふれるすばらしい景観とのことで、さらには座敷わらし伝説の残る宿や、金田一京助、三浦哲郎ゆかりの宿などがある国民保養温泉地で、金田一温泉を有するなど、恵まれた自然環境にある。有史以前のパレオパラドキシアなどの化石や遺跡が多数発見されているほか、豊臣秀吉の天下統一に当たっての最後の攻防戦が繰り広げられた九戸城跡は、国の史跡に指定されている。

平成14年の東北新幹線二戸駅の開業により、北東北の観光の拠点として、活発な交流と連携の取り組みを図っている。

二戸という地名は、昔の牧場制度時代の名残りといわれており、その昔、この地方を糠部（ぬかのぶ）と呼んでいた頃、三戸南部の居城である三戸を中心に領内を東西南北の四つに分け、更に南を一戸、二戸、西を四戸、五戸、北を六戸、七戸、東を八戸、九戸と三戸を中心に九つに区別し、糠部九部四門と言っていた。これが地名のおこりとされている。（昭和47年市政施行により二戸市の誕生）

《視察項目》

「にのへブランド海外発信事業について」

●説明者及びお世話頂いた方々

- 二戸市 総合政策部 副部長兼政策推進課長「石村一洋」氏
- 二戸市議会 事務局 主事「田口晋也」氏
- 二戸市議会 議長「菅原恒雄」氏（挨拶）

《視察内容》

●視察の要点等

○目的

浄法漆、南部美人（日本酒）などの地域特産品を海外（ニューヨーク）でPRし

二戸のブランドイメージ向上を図り、海外での情報発信と販路開拓を展開する流れから海外での評価、実績を日本国内にフィードバックし国内での市場開拓、販路の拡大に繋げ、地場産業の振興を図る。

○実施事業（3年計画・本年再終年）

- ・在ニューヨーク総領事大使公邸における二戸市レセプションを実施
- ・このヘシティブフェア in ニューヨーク（平成25年・26年）
- ・二戸市レストランフェア
- ・第21回ニューヨーク共同貿易日本食レストランエキスポ出展
- ・漆セミナー（ワークショップ）

○事業費等

- ・平成25年度 8,147,000円
（県補助金 5,133,000円・市補助金 3,014,000円）
- ・平成26年度 14,734,000円
（全国商工会補助金 8,739,000円・市補助金 5,000,000円・
二戸商工会補助金 542,000千円・雑収入 453,000円）

○小さなまちの大きな挑戦

キャッチフレーズを「小さなまちの大きな挑戦」とし、「漆器」「南部美人」をセットとしPRは基より、販路拡大、そして漆器職人の人材育成等に取り組む。

《所 感》

3ヶ年計画の最終年度となる本年、渡米の計画も着々と進められているようですが、今後（平成28年度以降）の展開を注視したいと思います。

ところで、今回の二戸市視察で一番の印象は、キャッチフレーズの「小さなまちの大きな挑戦」でありました。当然のごとく何の違和感もないフレーズではありますが、当方自身は常日頃感じることばであり、今となっては、そのことばの本髄は、今日の国家戦略の大きな柱となる「地方創生」「地域の創生」に必要な精神的指針であると確信しています。それらが、遠く離れた二戸の地において展開されるにあたり心強く、また、応援したくも思います。

[第2日目岩手県盛岡市]

人口 298,857人 130,555世帯（平成27年4月1日現在）
面積 886.47km² 人口密度 337.13人/km²

●盛岡市の概要等

明治時代の廃藩置県により、盛岡藩は盛岡県、その後岩手県に変わった。そして1889年（明治22年）の市町村制施行により、全国39都市のひとつとして人口2万9190人、面積4.47平方キロメートルの県都盛岡市が誕生した。

近年の盛岡市は、1989年（平成元年）に市制施行100周年を迎え、1992年（平成4年）4月には南に隣接する都南村と、2006年1月には北に隣接する玉山村と合併を果し、人口約30万人、面積886.47平方キロメートルの新生盛岡市となった。また、2008年4月には中核市へと移行し、県から民生や保健衛生、環境、都市計画などの行政分野における事務の移譲を受け、新たなスタートを切り現在に至っている。今後も、さらに自立性を高め、新たな課題にも対処するため、健全な自治体経営を推進するとともに、北東北をリードし、要となる拠点都市として発展を目指している。

《視察項目》

「もりおか復興推進しえあハート村について」

●説明者及びお世話頂いた方々

- 盛岡市 総務部 危機管理防災課 課長（事務局主幹）「藤澤厚志」氏
- 盛岡市 総務部 危機管理防災課 副主幹兼復興推進係 係長「佐藤卓」氏
- しえあハート村 センターハウス おせわ係「木津川正芳」氏
- デジコン morioka 代表理事「三浦陽子」氏
- 盛岡市議会 事務局 議事総務課 書記「加賀慎太郎」氏

《視察内容等》

●盛岡市の東日本大震災に係る復興推進の取組方針（平成26年3月31日再生期編）

- 基本的な方向
 - 1. 被災者・被災地自立を支援
 - 2. ハブ（結節点）・コーディネイターとしての役割・機能の発揮
 - 3. 「つながり」と「連携」により復興を加速
- 基本的な方向を受け4つの柱
 - 1. 内陸避難者支援
 - 2. 沿岸被災地後方支援
 - 3. 経済の牽引
 - 4. 情報・元気の発信

●盛岡市の復興推進事業「シェアハート村」について

- 安心できる場所、復興への推進拠点として・・・

もりおか復興推進しえあハート村は、被災地から進学のために盛岡市へ転入してくる学生に無償で居所を提供する「復興支援学生寮」や、復興支援団体の活動拠点となる「シェアオフィス」、ボランティア活動の側面支援を行う「ボランティア番屋」など、被災者や被災地の状況を踏まえ、きめ細やかな復興推進に取り組むために設置された復興推進の複合的拠点施設です。

運営にあつては町内会を始めとする、多くの近隣住民の皆様の御理解、そして御協力を頂いている。多くの方がしえあハート村にかかわり、人と人、想いと想いをつなぎ合わせることで、1日も早い被災地の復興と、将来を担う人材の育成の一助になることを願っている拠点である。（盛岡市総務部危機管理防災課）

○サンガ岩手 113号棟

サンガ岩手は東日本大震災発生後に発足し災害支援活動をスタートしました。仕事づくり、生きがいくくり、仲間づくりをキーワードに生活自立支援活動、地域の特産品開発、研修事業、手作り内職プロジェクトなどの活動を行い、成果をあげています。

○シェアハート村マルシェ 122号棟



しえあハート村のコミュニティスペースとして「11日の灯り」や「勝正網み方教室」を開催。遊びに来るもよし、勉強するもよし。おしゃべりするも寝るもよし。毎月11日は夕方より東日本大震災月命日の祈念行事「11日の灯り」を開催。毎週木曜の午後は「11日の灯り」のキャンドルづくり。毎週金曜の午後は「勝正網み方教室」を開催。

○遠野まごころネット 120号棟

遠野市被災地支援ネットワーク「遠野まごころネット（遠野被災地支援ボランティア）」は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災で被災した岩手県沿岸部の被災者の方々を支援するべく、遠野市民を中心として結成されたボランティア集団です。

○ブラインドドリーム 113号棟

視覚障害者の様々な社会参加に関連する支援事業を行い、視覚障害者の福祉の増進に寄与する事を目的としています。

○復興推進デジコンシェアオフィスMORIOKA管理 107号

101・102・103・104・105・107・108号棟を管理、デジタルコンテンツの開発支援、人材育成をしています。

- ・101号棟 (有) コンテンツ計画 101号棟 tecollic
- ・102号棟 (株) オズ
- ・104号棟 (株) アイ・ファクトリー
- ・105号棟 (株) エディションズ 105号棟 ファンタピーク
- ・108号棟 デジコンシェアオフィス共有スペース

○ゆいっこ盛岡 115号棟

ゆいっこネットワークは民間有志による復興支援団体です。被災地の方を受け入れる内陸部の後方支援グループとして、救援物資提供やボランティア団体のコー

ディネート、内陸避難者の方のフォロー、被災地でのボランティア活動、復興会議の支援など、行政を補完する役割を担っております。

○ラインナップいわて 115号棟

一般社団法人ランプ・アップいわて！はランプ（スロープ）を製作、岩手県内外の店舗・施設、及び車椅子利用者に寄付する団体です。岩手県内外のバリアフリー推進、障害者やマイノリティへの認知と理解、健常者の福祉参加意識の向上を目指しています。また、東日本大震災被災者の皆様の雇用促進に貢献すべく、ランプの製造業務を被災者の皆様に委託させて頂いております。岩手県産の木材を使用し、岩手県民の手によって産出されるランプ=Made in Iwateのランプを世界中に発信してゆきます。

私たちが しえあハート村で活動しています
しえあハート村には復興交差点の性に復興交差点、デジタルコンテンツ関連の会社が入居し、さまざまな復興から復興を後押ししています (2019年6月現在)

115号棟 ランプ・アップいわて
ランプはスロープを製作、岩手県内外の店舗・施設及び車椅子利用者へ寄付する活動をしています。
お問合せはホームページから <http://lampupiwate.com/>

115号棟 復興交差点の性に復興交差点
いっしょに暮らし
イベントなどを通して、楽しみながら、被災地の方々の自信を回復している復興交差点ボランティア協議会です。
電話：070-5621-3254

115号棟 復興交差点の性に復興交差点
WIZ
只多作中中

102号棟 復興交差点の性に復興交差点
マルシェ
復興交差点の性に復興交差点の復興の力を得るための活動です。
1日1回の作り手と暮らしの保障を支援しています。
電話：090-7334-6598 (個人宅)
お待ちして
おきましょう

100号棟 復興交差点の性に復興交差点
遠野まごころネット
NPO法人遠野まごころネットは、復興の力を得るための活動です。復興の力を得るための活動です。復興の力を得るための活動です。
電話：019-613-8476 FAX：019-613-8476

115号棟 デジコンシェアオフィスMORIOKA
115号棟 フライド・ドリーム
115号棟 サンガビヤ
115号棟 ボジティブ協働

115号棟 アイ・ファクトリー
115号棟 TechLLC
115号棟 デジコンシェア
115号棟 オズ
115号棟 フアンタビーク
115号棟 オズ

115号棟 しえあハート村センターハウス
復興交差点の性に復興交差点、復興の力を得るための活動です。
【電話】019-621-5043
しえあハート村復興
Youtubeにて配信中!!
【電話】019-621-5043
だうど
遊びたいらして
ください

- しえあハート村平成28年撤去予定
- 復興と人材育成が共生

●屋内見学

- デジコンmorioka見学
- NPO法人遠野まごころネット見学
- NPO法人wiz・黒沢見学

〈所 感〉

復興支援推進の一環の流れではあるものの、そこに人材育成が組み込まれていることに感銘を受けました。ピンチをチャンスに変える方向性、継続的観点をもった取組として感じたところです。

しかし、ハード面において、このしえあハウスエリアは住宅の仮設住宅として建設（建築）されており、平成23年の東日本大震災を受け、解体を延期して有効活用をしてきたもので、平成28年度に撤去が決定しているとのことでした。これらの取組をどう進化させ、市民の方々のやる気を存続させるか注視しておきたいところと感じています。

[第3日目秋田県鹿角市]

人口 33,045人 13,265世帯（平成27年3月31日現在）

面積 707.34km² 人口密度 46.7人/km²

●鹿角市の概要等

鹿角市は、秋田県北東部に位置し、青森県、岩手県、秋田県の三県境に位置する。古くは「上津野」と表記していた。古墳も多く遺され、大湯環状列石は全国でも著名な縄文遺跡の1つである。

市の中部にある花輪盆地に、花輪、十和田の市街地があり、南部は八幡平や焼山がある山岳地帯となっている。北部は十和田湖付近の分水嶺までの丘陵地を市域とする。

八幡平頂上周辺および十和田湖自体は市域に含まれていないが、周辺の景勝地として市民に親しまれている。十和田湖と八幡平は、十和田湖八幡平国立公園に指定されている。

昭和40年代後半では少なかった3町1村の大型合併により発足し、面積は県内最大だったが、平成の大合併の際、県内市町で合併が相次ぎ、唯一合併を行わなかった鹿角市の面積は県内の市町村で8番目になった。

〈視察項目〉

「子どもが輝く学校教育の推進について」

●説明者及びお世話頂いた方々

○鹿角市 教育長「畠山義孝」氏

○鹿角市 教育委員会 総務学事課 学事指導管理監「石井和光」氏

○鹿角市 教育委員会 総務学事課 学事指導班 主査「児玉愛子」氏

○鹿角市議会 事務局 主幹「和田寛美」氏

○鹿角市議会 事務局「丸丘」氏

○鹿角市議会 副議長「倉岡誠」氏（挨拶）

≪視察内容等≫

●鹿角市教育委員会教育目標

「心豊かで たくましく 郷土を愛し その発展に尽くす市民を育む教育を進める」

●教育費支援事業について

○目的

少子化対策、子育て支援の観点から保護者の経済的負担を軽減するため、第3子以降の児童生徒の学校教育に係る教育費の助成を行う。

○事業費

平成26年度実績 5,800,062円 平成27年度予算 8,033,000円
「かづのの宝育成支援補助金」「かづのの宝夢支援補助金」

○平成26年度実績

「かづのの宝育成支援補助金」227名（231件）3,932,000円
「かづのの宝夢支援補助金」77名（79件）1,843,062円

○補助金額

「かづのの宝育成補助金」

小学校（第3子以降者）年額12,000円

中学校（第3子以降者）年額24,000円

「かづのの夢支援補助金」

高校（第3子以降者）年額上限36,000円+授業料上限月額9,000円

●かづの夢創造 s c h o o l 事業について

○目的

児童生徒にフェアプレーの精神や助け合うことの重要性を教えるとともに、夢や目標をもって生きていこうとする態度を養う。仲間と協力して課題や目的を達成することの充実感や夢や目標を持って生きることを大切にする児童生徒を育てる。

○対象者

市内小学5年生・中学2年生

○事業内容

各種スポーツ界の活躍した選手等（トップアスリート）を招き、出会いそしてふれあい、一緒にプレイをしたり講演会・談話を行っている。

○事業費

・平成26年度実績 小学校 1,480,000円 中学校 1,520,000円
・平成27年度予算 小学校 1,139,000円 中学校 1,437,000円

○委託先

公益財団法人日本サッカー協会（JFA）

●かづのふるさと・キャリア教育推進事業について

○目的

職場体験学習や地元企業人による講演などにより、勤労観や労働環境、社会・経済の仕組み等について理解し、自動生徒の社会人・職業人としての自立を促す機会を充実させる。

○事業費

平成26年度 191,560円 平成27年度予算 175,000円

○事業の概要

①. 鹿角市のふるさとキャリア教育

小学校、中学校、また高校も含め、鹿角市ふるさと観を醸成させている。一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な能力や態度を育む。

②. 夢探求プロジェクト「夢たん」

職場体験などを行っている。(138社協力)

③. 「夢たん」ボランティアプロジェクト

地域や企業などでのふれあいを通じ、意欲的に、また助け合いながら生きる力を育てている。(鹿角市民としての意識の育成を図る)

④. ふるさと生き生きネットワーク

自然や人々とのふれあいを通じ、キャリア教育の視点を加味したふるさと学習の充実を図り、各校30万円を上限として商品開発を行い教育活動を推進する。

《所 感》

鹿角市では御縁があり、畠山教育長自らが視察に同席を頂き、質問に対して多くの答弁を頂き、感謝しております。

鹿角市は秋田県で、秋田県と言えば全国学力テストの1位県であり、そのあたりの考察を伺った訳ですが、普通のことを普通に、外部情報（スマホ等）の少なさ等から自然な状態で、結果として1位となっているとの見解でありました。

さて、公益財団法人日本サッカー協会に委託している「かづの夢創造 school 事業」では、そのシステムを初めて知りました。アスリート選手等と身近にプレイしたり経験談話は、児童生徒に直感的に伝わるものと感じます。



●方言では・・・

「大湯環状列石が、世界遺産登録を目指してらす。すでに近隣の12市町が縄文遺跡群として国内暫定リストに登録されながらも、今回は世界遺産登録に向けた取り組みや縄文遺跡群の魅力などが説明会やるがら興味ある人は聞きにきてけれす。」とのことす。

○一般的には・・・

大湯環状列石が世界文化遺産登録を目指しています。すでに近隣の12市町の遺跡とともに「北海道・北東北の縄文遺跡群」として国内暫定リストに登録されておりますが、今回は、登録に向けた取り組みや、縄文遺跡群の魅力についてなど説明会が開催されますので、興味のある方は是非ご参加してください。

平成 27 年 7 月 15 日

小野市議会議長
前田光教 様

総務文教常任委員会
岡 嶋 正 昭

行政視察報告書

先般実施しました、総務文教常任委員会行政視察について、下記の通り報告いたします。

記

1 視察実施日 平成 27 年 7 月 1 日（水）～平成 27 年 7 月 3 日（金）

2 視察メンバー

竹内 修	河島三奈	加島 淳	前田光教	河島信行
椎屋邦隆	平田真実	岡嶋正昭	以上 8 名	

3 視察先及び調査内容

- ① 岩手県二戸市（人口約 2 万 9 千人、面積 4 2 0, 3 1 K m²）
このへブランド海外事業について
- ② 岩手県盛岡市（人口約 2 9 万 5 千人、面積 8 8 6, 4 7 K m²）
もりおか復興推進しえあハート村について
- ③ 秋田県鹿角市（人口 3 万 3 千人、面積 7 0 7, 3 4 K m²）
子どもが輝く学校教育の推進について

4 調査結果

【第 1 日】

岩手県二戸市

財政力指数 0, 3 3 実質公債費比率 1 3, 3 % 将来負担比率 7 9, 6 %

≪視察内容≫

このへブランド海外事業について

総事業費 8, 1 4 7 千円(単年度)

・事業概要

平成25～27年度の3カ年計画

① 在ニューヨーク総領事・大使公邸における二戸市レセプション

日 時：平成25年8月27日

内 容：浄法寺漆（漆器）と南部美人（日本酒）を味わうレセプションの開催及び会場での「いわて短角和牛」、特別栽培米「いわてっこ」「南せんべい」の提供。尚、浄法寺漆は国内産漆の80%を占めている。

会 場：在ニューヨーク総領事館・大使公邸

実施状況：二戸市の特産品の日本酒と漆器のセミナーを大使公邸の一階で開催。

・「南部美人と東北の復興」・「浄法寺漆の魅力」等の説明
協力機関・団体・岩手県人会等を通じて様々な分野から約200名の参加で、大盛況であった。

② にのへシティフェア in ニューヨーク

日 時：平成25年8月28(水)～9月6日(金)

内 容：「浄法寺漆器」「南部美人」（日本酒）の展示販売。

会 場：ニューヨーク共同貿易「MTCキッチン」

実施状況：マンハッタンにある共同貿易ショールーム MTCキッチンにおいて、漆器を使った日本酒の試飲、日本酒、浄法寺漆に関するセミナーの開催。

③ 平成26年度実施事業

- ・平成26年10月3日（金） オープニングレセプション
- ・二戸市レストランフェア 10月2日(木)～5日(日)
ニューヨーク市内3か所のレストランでの開催。
- ・第21回ニューヨーク共同貿易日本食レストランエキスポ出展
試飲等では、関心があるものの取引成立までにはいかなかった。
- ・漆セミナー/ワークショップの開催

《所 感》

特産品の海外への取組みとしての研修でした。

海外(ニューヨーク)では評価は高いものの契約(取引)までには至っていない。

商品としての評価を得ても、輸出に関する手続きそして、特に「農産物の輸出においてアメリカは非常にハードルが高い」という事が特に印象に残ったとの感想をききました。

本当に興味のある方々へのアピールが必要だし、国内外色々な状況を整備し、継続的に出荷できる生産体制の見直しも必要である。

二戸市での取組みは、地元の特産品の販売先を広く海外に目を向けて行った先進的な政

策でしたが、先行して地元の酒蔵の日本酒「南部美人」が実施されている海外取引と行動での政策ですが、一朝一夕には非常に難しい事業であるように感じたところでありました。

小野市においても、特に農産物においては従来のように生産するだけでなく視野を広く、行政も生産者と共に開発する必要性を強く感じたところでありました。

【第2日】

岩手県盛岡市

財政力指数 0, 67 実質公債費比率12, 6% 将来負担比率894%

《視察内容》

もりおか復興支援しえあハート村について

【目的】

東日本大震災からの復興に向けて被災者や被災地の状況を踏まえ様々な機能を集積した復興推進の複合的拠点施設を設置し、きめ細やかな復興推進に取り組む。

【特色】

区画整理事業で建設した仮住まいの戸建て住宅25棟を再利用。

- ① 復興支援学生寮(管理棟1棟、セミナーハウス1棟、学生寮8棟、定員30名)
- ② 被災地支援活動の拠点(3棟)
- ③ 復興支援シェアオフィス(3棟)
- ④ 市の復興推進事業の受託者の活動拠点(1棟)
- ⑤ 復興推進コミュニティ・カフェ(1棟)
- ⑥ 復興推進デジコンシェアオフィスMORIOKA(7棟)

○岩手県の震災被害状況

死者数；5, 125人 行方不明 1, 129人 家屋倒壊；26, 162棟

- ・平成23年3月：災害対策本部の設置、推進部の設置
- ・ 〃 6月：復興推進の取組方針の策定
- ・平成24年3月：東日本大震災復興推進・放射能対策本部の設置
- ・平成26年4月：危機管理防災課に再編
復興推進の取組方針(再生期編)の策定

～私たちの未来は被災地とともに～

もりおか復興推進しえあハート村の運営

・復興支援学生寮(シェアハウス)

人材育成の為、森岡氏へ転入の大学生・船学校生を無償で受け入れ
現在21名が入居。(定員30名、市内外から)
(復興への思い)

例；看護師になって地元に戻り・地元就職し、未来を担う子供たちの育成
に携わりたい。土木建築を研究し水害対策等に役立てたい等。

- ・コミュニティカフェ (地域の方々の誰でも利用可能)
- ・シェアオフィス (復興支援団体の為の施設)
- ・デジタルコンテンツ (就労支援施設) 等

《所 感》

東日本大震災の復興推進事業として取組まれた「もりおか復興推進しえあハート村」事業ですが、盛岡市の大規模な区画整理事業において仮住まいとして建てられた住居跡で、取壊さなければならない状況にあった。(今後緑地公園として整備の予定。)震災後3年を経過し次に展開しなければならない状況となってきた。

本来の復興状況の進展が芳しくない状況にあり現状と次への展開において大変苦慮されているようであった。

小野市においては今後、山崎断層等で大きな地震が想定されています。「阪神淡路大震災」「東日本大震災」等々の経験を良く勉強し、そして理解し、いざと云う時の備えの必要性を強く感じたところです。

【3日目】

秋田県鹿角市

財政力指数 0.31 実質公債費比率9.1% 将来負担比率27.4%

《視察内容》

子どもが輝く学校教育について(小学校9校、中学校5校)

【目的】

「学び」「こころ」「ふるさと」そして未来へ！の基本理念達成のため、確かな学力の育成、豊かな心の育成、社会の中で生きる力の育成などを図る。

【特色】

① 教育費支援事業

第3子以降の教育に係る費用を助成。

現在の若者

- ・「学校から社会・職業への移行」が円滑に行われていない。
- ・「社会的・職業的自立」に向けて様々な課題が見られる。
- ・子どもたちの生活・意識の変容



キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な能力や態度を育てる。

○教育費支援(平成27年度予算 8,033千円)

少子化・子育て支援の観点から、第3子以降の児童生徒の教育費の助成。

小学生 年額12,000円 中学生 年額24,000円

高等学校 年額36,000円 (授業料 月額9,900円限度)

○かづの夢創造SCHOOL事業 (平成27年度予算2,576千円)

JFA日本サッカー協会と連携し、小学5年生及び中学2年生を対象に「夢の教室」を開催。(平成22年度より)

- ・市内全小学校5年生、中学校2年生の児童生徒
 - ・トップアスリートとの出会いの新鮮さ、貴重さ
 - ・「本物」との出会いがもたらすしげき、視野の広がり、自己肯定感の高揚
- 小学生で普段の授業を普通に受けられなかった生徒が、夢先生の授業になると目の輝きが違ってきた様な事もあった。

○かづのふるさと・キャリア教育推進事業(平成27年度予算 175千円)

故郷に根付いた地域参加型のキャリア教育を行う。

- *兵庫県教育委員会としての取組みであります「トライやるウィーク」に当たるものようです。

<成果と課題>

- ・郷土を大切にしている心情の醸成、自分の地域の良さや可能性の実感、将来を切り拓く態度等の育成。
- ・地域や企業等との連携によって、児童生徒の意見や考え等を反映した商品化の事例等。

《所 感》

全国学力テストにおいて常に上位を形成されている秋田県の教育の取組みについて視察を行いました。

鹿角市は昭和47年1月に合併し、人口は昭和55年に45,615人が平成27年3月には33,045人(72.4%)減少。そこで取組まれた教育での「学習プログラム」が①ふるさと鹿角へ、愛着新と誇りを持った人間。②ふるさと鹿角を支え、発展させようとする、強い意思を持った人間。③ふるさと鹿角の先人に学び、職業人・社会人として自立する人間。の3つを目標に学校教育への取組みをなされている。「ふるさと」を

非常に意識をした取組みで、高校・大学を出社会人として活躍しやがて「ふるさと」への意識を強く感じました。

この様に子どもたちへの非常に優しい取組みで、教育は、やはり地域・家庭教育が基本であることを再認識いたしました。

平成 27 年 7 月 13 日

小野市議会議長 前田光教 様

総務文教常任委員会
加 島 淳

行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成 27 年 7 月 1 日（水）～平成 27 年 7 月 3 日（金）

2 視察メンバー

竹内修委員長
河島三奈副委員長
前田光教
岡嶋正昭
河島信行
平田真実
椎屋邦隆
加島淳

3 視察先及び調査内容

- (1) 岩手県二戸市（人口：約 2 万 8 千人、面積：420.31K m²）
にのへブランド海外発信事業について
- (2) 岩手県盛岡市（人口：約 29 万 8 千人、面積：886.47K m²）
盛岡市の復興推進事業について（もりおか復興推進しえあハート村の運営）
- (3) 秋田県鹿角市（人口：約 3 万 3 千人、面積：707.52K m²）
子どもが輝く学校教育の推進について

4 調査結果

【第1日】

岩手県二戸市

人口：約2万8千人、面積：420.31K㎡

《視察項目》

このへブランド海外発信事業について



《視察内容》

1 事業目的

二戸市が誇る浄法寺漆や南部美人（日本酒）など地域特産品を海外（ニューヨーク）でPRすることにより、他の地域・自治体との差別化を図り、二戸のブランドイメージの向上を図る。

また、海外での情報発信と販路開拓を展開し、海外での評価・実績を日本国内にフィードバックして国内での市場開拓・販路拡大に繋げることで、地場産業の振興を図る。

2 事業概要

(1) 平成25年度実施事業

- ①在ニューヨーク総領事・大使公邸における二戸市レセプション
- ②このへシティフェア in ニューヨーク

(2) 平成26年度実施事業

- ①オープニングレセプション
- ②二戸市レストランフェア
- ③第21回ニューヨーク共同貿易日本食レストランエキスポ出展
- ④漆セミナー/ワークショップ

(3) 平成27年度事業に向けて

《所感》

二戸市の地場産業である、「浄法寺漆」「南部美人（日本酒）」「いわてっこ（特別栽培米）」「いわて短角和牛」「南部せんべい」をニューヨークでPRし、海外での評価・実

績を日本国内にフィードバックして国内での市場開拓・販路拡大に繋げることで、地場産業の振興を図るための事業。

平成 25 年度は 8 月 27 日に、ニューヨーク総領事公邸でレセプションを行った。漆・日本酒のセミナーの後、公邸 2 階で約 200 名の参加の下、レセプションを開催した。大使、市長の挨拶。和牛、特別栽培米、南部せんべいは大変好評であった。また、漆は文化的な価値とあわせて高い評価であった。

8 月 28 日～9 月 6 日には、ニューヨーク共同貿易「MTCキッチン」でのヘシティフェア in ニューヨークと題し、「漆」と「南部美人」の展示販売を行った。来場者には理解を深めてもらうための PR をおこなった。

平成 26 年度は 10 月 3 日にオープニングレセプション。10 月 2 日～5 日に「二戸市レストランフェア」と題し、日本食レストランで二戸市の食材を使ったメニューを漆食器とともに提供した。10 月 4 日にニューヨーク共同貿易日本食レストランエキスポに出展。サンプルという形での出店で、関心は持ってもらえたものの取引の成立には至らなかった。10 月 26 日「漆セミナー/ワークショップ」を開催。事前予約制であったが、無料ということもあって 88 名が参加。講演は外国人漆芸家スザーンロスと会長。質疑応答は日本の漆文化に高い関心が示された。

今年、27 年度は最後の年として、2 年間の成果・課題を踏まえ漆や日本酒を中心に、世界に誇れる特産品の魅力を最大限高め、海外で通用するブランド力を確立する。二戸市の魅力を丁寧に伝えながら、販路拡大、展示会への出店、市場調査等を行い、継続的な情報発信と商取引の実現を図る。

【第 2 日】

岩手県盛岡市

人口：約 29 万 8 千人、面積：886.47K m²

《視察項目》

盛岡市の復興推進事業について（もりおか復興推進しえあハート村の運営）



〈視察内容〉

1 盛岡市の復興支援事業

- ①東日本大震災津波 岩手県の被害状況
- ②盛岡市の復興推進体制
- ③東日本大震災に係る盛岡市復興推進の取り組み方針
- ④盛岡市の復興推進事業
- ⑤もりおか復興支援センターの運営
- ⑥もりおか復興推進しえあハート村の運営
- ⑦復興支援学生寮シェアハウス
- ⑧復興推進にかかる情報発信
- ⑨その他の復興推進事業



〈所 感〉

岩手県盛岡市本宮にある「しえあハート村センターハウス」で説明を受ける。
東日本大震災では、幸いなことに盛岡市では死者はなかったとのこと。ただ、沿岸部
で働いていた、市民 33 名が津波の犠牲となった。

平成 26 年 3 月に制定された「盛岡市復興推進の取り組み方針」の基本的な方向性は、

- ①被災者・被災地自立を支援
- ②ハブ（結節点）・コーディネーターとしての役割・機能の発揮
- ③「つながり」と「連携」により復興を加速

により、

内陸避難者支援・沿岸被災地後方支援・経済の牽引・情報元気の発信を行う。

その事業の一つとして、「もりおか復興推進しえあハート村の運営」がある。

本事業は、平成 25 年 4 月に地域の住民や NPO などと協働して、本宮地区の復興支援
学生寮の周辺を新たな震災復興の推進拠点として整備したもの。

その機能は

- ・復興支援学生寮
- ・ボランティアの受け入れ（26 年度で終了）

- ・コミュニティカフェ
- ・復興支援団体のためのシェアオフィス
- ・就労支援施設（デジタルコンテンツ）※デジタルコンテンツ関連の企業・クリエイターに対し、オフィスを無償貸与
- ・地域コミュニティの交流支援事業（26年度で終了）

また、復興支援学生寮シェアハウスは進学のため盛岡市へ転入してくる大学生や専門学校生を対象に、無償で共同住宅を提供。現在8棟に21名の学生が入居している。おもな困窮原因は、住宅の全壊・両親の失業、減収。学生たちは復興・防災への貢献・将来を担う子供たちの育成などの思いをもち、勉学に励んでいる。

【第3日】

秋田県鹿角市

人口：約3万3千人、面積：707.52K㎡

《視察項目》

子どもが輝く学校教育の推進について



《視察内容》

1 教育費支援事業

目的：少子化対策、子育て支援の観点から保護者の経済的負担の軽減策として、第3子以降の児童生徒の教育に価格教育費の補助。

①かづのの宝育成支援補助金（小中学校）

補助金実績（H26）

227名 3,932,000円

②かづのの宝夢支援補助金（高等学校）

補助金実績（H26） 1,843,062円

2 かづの夢創造 School 事業

目的：児童生徒にフェアプレーの精神や助け合うことの重要性を教えるとともに、夢や目標をもって生きていこうとする態度を養う。

3 かづのふるさと・キャリア教育推進事業について

目的：職場体験学習や地元企業人による講演などにより、勤労館や労働環境、社会・経済の仕組み等について理解し、児童生徒の社会人・職業人としての自立を促す機会を充実させる。



《所 感》

教育費補助事業は、小中学校、高等学校に在籍する第3子以降の子供を養育している保護者に対して支払われるのもで、平成26年度の実績額は5,800,062円、27年度予算額は8,033,000円。少子化対策・子育て支援の観点からの教育費の助成制度。

かづの夢創造 School 事業は、公益財団法人 日本サッカー協会に委託し、「仲間と協力して課題や目的を達成することの充実感や夢や目標をもって生きることを大切にする児等生徒を育てる。」ために、市内全小学校5年生、中学校2年生を対象に行われている。「夢教室」は90分を基本として構成される。(中学校は100分)

前半35分は「ゲームの時間」。後半55分は「トークの時間」

成果と課題は、

- ・夢や目標をもって日々努力をしたり、一生懸命物事に取り組んだりする児童生徒の育成に寄与
- ・トップアスリートとの出会いの新鮮さ、貴重さ
- ・「本物」との出会いがもたらす刺激、視野の広がり、自己肯定感の高揚
- ・これからはスポーツ分野以外の「本物」に触れる機会を検討

事業費は、平成26年度実績額 小学校1,480,000円 中学校1,520,000円。